

# 令和3年度事業報告書

## 新たな船出の一年を終えて

かねてより準備を進めてきた尼崎中高年事業(株)緑化部門との事業統合が、令和3年4月1日付で行われ、59人の職員とその機動力を活かした公園緑地や街路樹等の維持管理業務などが当協会に移管され、組織規模が倍増した。

新組織をスタートするに当たっては、公益法人特有の運営形態からもたらされる様々な事務の課題や両団体の異なる作業手法のすり合わせなどの懸案事項を整理していくための会議体を複数設置して協議を重ね、取り組むべき方向性を検討した。

また、統合により事業の幅が拡充した当協会は、尼崎市の緑化施策実現に向けたパートナーに位置付けられたことから、市職員の派遣を受けて、そのあり方を検討する会議体を立ち上げ、今後の事業の方針を検討した。

加えて、中期計画に掲げる緑化普及啓発事業の拡充と維持管理業務の効率化を早期に実現するため、組織改正の予定を前倒しして行い、緑化普及に特化した「花と緑のまちづくり課」を新設するとともに、緑化担当部長の下、剪定等の維持管理業務を担う二つの課の連携を強化する体制を整備した。

更には、新協会の統合の成果を速やかに“見える化”していくことを目的に設置した「新規広報戦略プロジェクトチーム」を推進力として、規模が拡大した収益事業から得た利益の一部を財源に、バラ園リニューアルプロジェクトや公園リーフレット作成など、新たな緑化事業を幅広く展開し、自律的で創造的な公益活動の一層の充実に努めた。

統合初年度は、普及啓発事業にとって大きな逆風となるコロナ禍の環境でのスタートとなったが、統合することによって手に入れたスケールメリットやマンパワーを最大限に活かし、新たな緑化公園協会としてのあり方を方向付ける第一歩を踏み出す一年となった。



(多くの職員と車両)

## 【事業活動部門】

### ◆ 新型コロナウイルス感染症の事業への影響

変異と流行の波を繰返しながら2年を経た新型コロナウイルス感染症の影響は、本年度も当協会が実施する様々な緑化啓発事業に、ネガティブな影響をもたらした。

- ・新型コロナウイルス感染防止により中止となった主な事業等

事業等名称	実施予定場所	例年の内容
チューリップまつり	中央公園	切り花配付、演奏会他
春の花と緑のフェスティバル	上坂部西公園	式典、花苗配付、花の市他多数
さつき展	中央公園	さつき盆栽展示、品評会、表彰
わんぱく池（一部期間）	元浜緑地	子ども向け水遊び施設
運動会等開催サポート	尼崎の森中央緑地	近隣企業等の運動会開催をサポート
冒険ひろばがやってきた！	西武庫公園	滑車すべり、丸太ころがし他

これらの事業の他、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自主事業を中心に一部の講習会や展示会の開催を中止した。

### ◆ 公益目的事業

#### I 公益1事業〔定款事業(1)〕

（緑化普及啓発フィールド公園などを活用した普及啓発、利用促進並びに都市環境緑化の推進事業）



… 中高年からの移管

… 新規・見直し事業

《管理施設》

- ・緑化普及啓発フィールド公園

名 称	フィールドの特徴
上坂部西公園 (尼崎市都市緑化植物園)	都市緑化植物園；花と緑の学習空間
元浜緑地	キッズランド；子ども達の遊びと学び
大井戸公園	ローズガーデン；バラを通じてのボランティア活動空間
近松公園	日本庭園風公園；植物と文化の歴史空間
宮内公園	梅と茶室のある公園；観梅茶会
中央公園西側芝生広場	花と緑の魅力発信空間；市内外への魅力発信の場
祇園橋緑地	緑の散歩道
蓬川緑地バラ園	川岸のバラ園

- ・その他の公園緑地

名 称	フィールドの特徴
西武庫公園	サクラ、分区園、利用団体のネットワーク
県立尼崎の森中央緑地	参画と協働による生物多様性の森づくり

# 1 緑の相談所及び緑化普及啓発フィールド公園事業

## (1) フィールド公園の魅力向上の取組

### ① 自然を活用した事業

フィールド公園内の花や生物などの自然とふれあう催しを実施し、市民の方々に公園へ足を運んでいただいで、花と緑がもたらす効用や、生物多様性を考える機会を創出した。

・フィールド公園内の自然を活用した事業一覧表

開催日	事業名	開催場所	参加者数	内 容
4月23日	植物園ガイド(2回)	上坂部西公園	21名	園内でみられる絶滅危惧植物の紹介
6月11日	健康ウォーキング教室	上坂部西公園	15名	公園を活用した正しい歩き方による健康増進
9月25日	植物園ガイド	上坂部西公園	32名	園内の見頃の植物の案内
11月6日	野鳥観察会	上坂部西公園	15名	公園で見られる身近な野鳥の観察
11月27日	植物園ガイド	上坂部西公園	26名	隠れた魅力の植物の案内
11月28日	季節の花散策～バラ～(2回)	大井戸公園	29名	解説を聞きながらバラ園の散策と簡単ポプリ作り
12月19日	昆虫観察会	上坂部西公園	20名	ゴマダラチョウの幼虫探し
3月26日	植物園ガイド	上坂部西公園	10名	公園の春一番の植物の案内
合 計		10回開催	168名	



(健康ウォーキング教室)



(植物園ガイド)



(野鳥観察会)

### ② “みどりの学校”開校

上坂部西公園周辺の工場や社宅跡地などに次々と建設された大規模マンション居住者などの子育て世代の親子を対象にした、体験型の教室である「みどりの学校」を小学校の夏休み期間に合わせて開校し、ファミリー世帯に自然とのふれあいや植物を育てる楽しさを伝えるとともに、夏休みの宿題にも活用できる実益を兼ねた学習の場を提供した。

・子ども向け体験教室（みどりの学校）（受託事業）の開催状況

講習会名 / 月	7/24	7/25	7/31	8/7	8/28	計	
						回数	人数
セミ羽化観察会	52					1	52
森の工作教室（全2回）		25				2	25
身近な川の生きもの探し（全2回）			73			2	73
天然素材で蚊取線香作り（全2回）				25		2	25
多肉植物の寄せ植えづくり（全2回）					21	2	21
計	回数	1	2	2	2	2	—
	人数	52	25	73	25	21	196



（セミ羽化観察会）



（森の工作教室）



（多肉植物の寄せ植え）

③ “絶滅危惧植物”の保護

植物園の使命である絶滅危惧植物の保護のため、2018年12月に尼崎市内の水路で保護した兵庫県絶滅危惧種Aランクのシダ植物「デンジソウ」の、一昨年には里親として受け入れた小笠原諸島のみで自生する日本固有の樹木で、国指定の絶滅危惧類「オガサワラグワ」の、昨年度には、日本植物園協会を通じて絶滅危惧2類である「リュウケツジュ（竜血樹）」の譲渡を受けた。

当園では、これらの他にもヒメバラモミやジュラシックツリー、ジャカラнда、サボテン類など約75種の国内外の絶滅危惧植物を保存、展示しており、日本植物園協会加盟園として絶滅危惧植物の保有状況調査及びリスト作成や「絶滅のおそれのある野生植物の種の国際取引に関する条約（ワシントン条約）」に抵触する植物の保管を行うなど、植物多様性保全に重点を置いた取組を行っている。

また、4月には「植物園ガイド」を実施し、参加者に園内で見られる絶滅危惧植物の紹介を行うなど、協会の取組について市民への周知を図った。



（リュウケツジュ）



（ジャカラнда）



（絶滅危惧植物の紹介）

#### ④ SDGs 地域ポイント制度への協賛

尼崎市が実施する「SDGs 地域ポイント制度」に協賛し、公園での除草作業など当協会が指定するボランティア活動の参加者にSDGs ポイントを付与するとともに、一定のポイント（1000ポイント）を貯めた方にはポイントをフラワーギフト券と交換するサービスを提供した。

活動場所	参加者数	付与したポイント
上坂部西公園	200人	10,000p

※1回の参加で50ポイント進呈



(SDGs ボランティアの活動の様子)

#### (2) ボランティアとの協働の取組

本年度も、上坂部西公園をはじめとする普及啓発フィールドの基幹公園で立ち上げた公園ボランティアグループと共に、感染防止に留意しつつ市民協働の公園運営に取り組んだ。

##### ① グリーンヘルパーとの協働の取組

花と緑に関する学習や研究に取り組む市民ボランティアグループ「尼崎市都市緑化植物園グリーンヘルパー」の皆さんが、当協会と連携のもと上坂部西公園を拠点に月2回の定例活動などを実施した。

また本年度、グリーンヘルパーの活動が、尼崎市の景観形成や緑化普及啓発、環境教育に大きく貢献していることが高く評価され、第10回尼崎市まちかどチャームング賞（都市美形成活動部門）を受賞した。



(チャームング賞受賞の様子)

- ・登録人数 17名
- ・定例活動日 毎月第2・4土曜日（定例日以外にも日常的に作業多数実施）
- ・活動内容 本年度も、公園内の一部の花壇の植替えや管理、植物園ガイドなどの活動に取り組んだ他、兵庫県が小学3年生を対象に実施する環境学習にサポーターとして登録し、6校19クラス547人の生徒を受け入れて上坂部西公園の植物観察会を行うなど、工夫を凝らした質の高い活動を実施した。



(植物の植替え作業)



(植物園ガイド)



(小学生対象の環境学習)

## ② ローズAMA（大井戸公園）とのバラ栽培管理の取組

大井戸公園においてバラ栽培管理ボランティアを募り、ローズAMAの名称で月1回ボランティア活動を実施した。たくさんのバラが咲き誇る当公園のバラ管理に欠かせないグループとして、大変手間が掛かるバラ管理作業に活発に取り組んだ。

- ・登録人数 27名
- ・定例活動日 毎月第1木曜日  
(上記以外にも日常的に  
花がら摘み等の作業を実施)
- ・活動内容 花がら摘み、除草、施肥など季節に応じたバラの栽培管理作業を実施した。



(ローズAMAの作業風景)

## ③ 近松公園アヤマクラブのアヤメ園整備の取組

アヤメ園の除草や枯れた花の刈り取り、アヤメの補植等を行って景観を整えるなど、各種整備に取り組んだ。

- ・登録人数 7名
- ・定例活動日 毎月第2水曜日
- ・活動内容 除草や施肥、薬剤散布、株分け等の管理作業を実施した。



(アヤマクラブの活動の様子)

## ④ 元浜緑地アジサイクラブの株数増加などの取組

踏圧などで衰退していたもみじ池周辺のアジサイを再生させるため、挿し木したものを育成して植え付け、花数の増加に取り組んだほか、日照を遮っていた樹木の剪定を行うなど、幅広い活動を実施した。

- ・登録人数 6名
- ・定例活動日 毎月第1火曜日
- ・活動内容 アジサイ園の落ち葉清掃、除草、灌水、剪定などの維持管理作業、挿し木や補植などの増殖作業等を実施した。



(アジサイクラブの活動の様子)

## (3) 仕事体験等の受入

本年度は新型コロナウイルス感染防止のため、中学2年生対象の職場体験「トライやるウィーク」は西武庫公園で1校のみ受入れできたが、障がい者の方々の“しごと”との接点拡充のために取り組んでいる「障がい者しごと体験事業」、生活保護受給者の社会的自立を支援する「社会的な居場所づくり支援事業」などの緑化普及の立場からの社会貢献事業は中止となった。

事業名称	回数・団体数	受入人数
中学生のトライやるウィーク	1校	5人
障がい者しごと体験事業	新型コロナウイルス感染防止のため中止	
社会的な居場所づくり事業	〃	
合計	1校	5人

#### (4) 講習会事業

緑の相談所での園芸等の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月から9月までの間で一部の事業を中止し、また、その後講習会室の定員の50%(15名)を上限に実施した。コロナ禍の巣ごもり需要や生活様式の変更を背景に園芸に関する注目が集まる中、自宅で楽しめるインドアグリーンやベランダ園芸、屋外での「公園で健康にウォーキング教室」など時宜にかなった講習を開いた他、初心者向けのガーデニング体験の講座、皐月、小品盆栽等伝統園芸の管理方法を学ぶ教室など、多様な視点からすそ野の広いメニューを企画し、市民の方々に提供した。

#### 緑の相談所などにおける講習会開催状況

・上坂部西公園緑の相談所での一般講習会(受託事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
													回数	人数	
ハーブでバスボムづくり		15											1	15	
植物園(温室)ガイド			28				21						4	49	
インドアプランツの寄せ植え						14							1	14	
ベランダで果樹を育てよう								15					1	15	
しめ縄づくり									17				1	17	
クリスマスローズの育て方											13		1	13	
多肉植物の寄せ植え												15	1	15	
計	回数	0	1	2	0	0	1	2	1	1	0	1	1	10	—
	人数	0	15	28	0	0	14	21	15	17	0	13	15	—	138



(インドアプランツの寄せ植え)



(ベランダで果樹を育てよう)



(クリスマスローズの育て方)

・上坂部西公園緑の相談所での一般講習会(自主事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	回数	人数												
菊作り	15	7	9	7			5					12	6	55
洋ラン(連続講座含む)	24	11										15	4	50
皐月盆栽	10	-	-	9		9	9	11	11	11	6	10	9	86
小品盆栽	9	-	-	13	-	-	14	14	15	12	16	15	8	108
計	回数	5	2	1	3	-	1	3	2	2	2	4	27	—
	人数	58	18	9	29	-	9	28	25	26	23	22	52	—

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため5～9月の一部の講習会は中止



(菊作り講習会)



(皐月盆栽講習会)



(小品盆栽講習会)

・体験型花壇講習(受託事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	回数	人数												
上坂部西公園		8				15		15					3	38
西武庫公園						5			5			6	3	16
計	回数		1			2		1	1			1	6	—
	人数		8				20		15	5		6	—	54



(体験型花壇講習の様子)

・依頼講習会(自主事業)の開催状況

講習会名 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
	回数	人数												
阪神シニアカレッジ							中止						0	0
尼崎市立身体障害者福祉センター							8		10				2	18
コミュニティールーム武庫運営委員会									10				1	10
計	回数						1		2				3	—
	人数						8		20				—	28

## (5) 展示会事業

花や緑に関連する各種展示会についても、緊急事態措置実施期間中に開催予定のものを中心に一部の開催を中止又は延期したほか、開催にあたっては、会場入口での検温、手指消毒や新型コロナ追跡システムの活用など、感染予防対策を徹底した。

緑の相談所では、植物園機能を活かした企画展示、展示施設では市民団体等の発表の場としての展示と、施設の特徴に応じて使い分け、また自主事業も多数企画し、多彩な展示会を開催して、花・緑の素晴らしさを広く発信した。

### ・展示会の開催状況

展示会名	開催期間	場 所	区別	内 容	来場数
小品盆栽と山野草展	4/23～4/24	展示施設	自主	尼崎小品盆栽山草会会員が育てた風情あふれる小品盆栽を展示	223 人
みどりとやきもの展	5/14～5/16	展示施設	自主	「やきもの」に植物を添えた作品を展示	中止
初夏の山野草展	6/11～6/13	展示施設	自主	尼崎小品盆栽山草会会員が育てた風情あふれる山野草を展示	中止
游鉢展	6/18～6/20	展示施設	自主	ヤシガラ繊維を使った手作りの鉢に秋の植物を植え込んだ作品を展示	中止
俳句と粘土作品展	6/25～6/27	展示施設	自主	石粉粘土で作った植物などの作品に俳句を添えて展示	216 人
熱帯果樹 de! 南国気分展	6/25～6/28	上坂部温室	受託	身近なフルーツから珍しいものまでの熱帯果樹を展示	383 人
寒蘭展～新芽会	7/9～7/11	展示施設	自主	寒蘭のすらりと優美にのびる美しい新芽を展示	中止
花と緑の墨彩画展	7/16～7/18	展示施設	自主	色紙に墨や顔料で描いた花や緑の作品約 20 点を展示	225 人
2020 あまがさきフラワーガーデニングコンテスト入賞花壇写真展	8/2～8/9	展示施設	受託	各部門の入賞花壇の写真を展示	95 人
こども写真展	9/2～9/5	展示施設	自主	写真を通じて、こどもの個性や感性を伸ばす写真展	60 人
地球環境世界児童画コンテスト作品展	9/9～9/12	展示施設	受託	環境をテーマにした児童絵画コンクールの受賞作品を展示	108 人
豆盆栽展	9/17～9/19	展示施設	自主	日本豆盆栽連合会による 10 センチメートル前後の小品盆栽約 20 席を展示	中止
アルミアート展	9/24～9/26	展示施設	自主	旋盤加工技術でアルミに花柄などの様々な絵柄を描いた作品を展示	239 人
パンフラワー作品展	10/1～10/3	展示施設	自主	小麦粉粘土や樹脂粘土、軽量粘土などで成形した花の作品を展示	中止
秋の游鉢展	10/8～10/10	展示施設	自主	ヤシガラ繊維を使った手作りの鉢に秋の植物を植え込んだ作品を展示	142 人
みどりとやきもの展	10/15～10/17	展示施設	自主	「やきもの」に植物を添えた作品を展示	214 人
小品盆栽と山野草展	10/22～10/24	展示施設	自主	尼崎小品盆栽山草会会員が育てた風情あふれる小品盆栽を展示	254 人
多肉植物いろいろ展	10/22～10/25	上坂部温室	受託	アロエやカランコエの仲間他、様々な多肉植物約 100 種を展示	284 人
秋季さつき樹形展	10/29～10/31	展示施設	自主	尼崎臈月協会会員が育てた臈月盆栽を展示	216 人
園内で見られる野鳥展	11/5～11/7	展示施設	受託	園内で撮影した野鳥写真のパネルを展示	160 人
草木染め展	11/12～11/15	展示施設	自主	草木で染めた布を用いた作品などを展示	321 人
寒蘭展	11/19～11/21	展示施設	自主	花の咲いた寒蘭を展示	中止

展示会名	開催期間	場 所	区別	内 容	来場数
秋咲き椿展	11/28	展示施設	自主	コーベ・カメラア・ソサエティによる秋咲きの椿を展示	130人
秋の洋ラン展	12/3～12/5	展示施設	自主	尼崎洋ラン会会員が育てた秋咲き洋ランを展示	270人
市民の洋ラン展	2/4～2/6	展示施設	自主	尼崎洋ラン会会員が育てたラン約120鉢を展示	212人
早咲き椿展	2/13	展示施設	自主	早咲きの椿を展示	42人
クリスマスローズ展	2/23～2/27	展示施設	受託	原種と交配種のクリスマスローズを約110点展示	335人
小品盆栽とうつわ展	3/4～3/6	展示施設	自主	小品盆栽と手作りのうつわを展示	192人
春の椿展	3/26～3/27	展示施設	自主	春に咲く椿を展示	150人
受託事業 6回 自主事業 16回 合計 22回 延べ開催日数 72日 来場数4,471人					



(多肉植物いろいろ展)



(クリスマスローズ展)



(春の椿展)

## (6) 緑の相談業務

上坂部西公園緑の相談所において、当協会園芸相談員等の専門家を配し、緑化園芸相談を年間を通して実施した。相談にあたっては、相談者のレベルに応じたわかりやすい説明に留意するなど、多様なニーズに的確に応えるよう努めた。

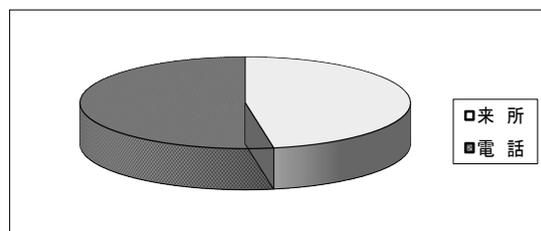
例年の園芸相談では来所者が電話による件数を上回るが、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が対面での相談を避ける傾向があったことなどにより、電話での相談が来所を上回った。

### ① 相談所利用状況

来所・電話別

来 所	電 話	合 計
1,436	1,604	3,040
47.2%	52.8%	100%

※1人当たり複数の内容の相談を受ける場合があるため、年間の相談件数は5,186件にのぼる



### ② 主な相談内容

草花や野菜、果樹等の育成方法や樹木の手入れ、病虫害の防除、土づくり、植物の分類など多岐に亘り、ビギナーから上級者まで丁寧に対応した。

### (7) 2021 あまがさきフラワーガーデニングコンテストの開催

市民の方々などが手掛けた自慢の花壇を、家庭・コミュニティ・学校緑化の各部門ごとに募集して専門家が顕彰する当コンテストを本年度も実施し、まちの魅力を内外に発信するとともに、技術向上の一助とした。

- ・ 募集期間 令和3年5月1日（土）～11月30日（日）
- ・ 審査日 令和4年1月24日（月）
- ・ 応募総数 28件
- ・ 入賞花壇数 9件（家庭緑化部門2件、コミュニティ緑化部門2件、  
学校緑化部門2件、緑化公園協会特別賞3件）
- ・ 各部門の最優秀花壇



(家庭緑化部門)



(コミュニティ緑化部門)



(学校緑化部門)

### (8) ローズアマガサキ事業

園芸研究家の藤岡友宏氏が交配・作出し、市制100周年である2016年に新品種のバラ10種の中から市民投票により決定された尼崎市のオリジナルローズである「ローズアマガサキ2016」を、各種講習会や公園内への掲示、HPでの紹介などを通じて広く広報に努めた。

また、同バラのPRと今後の補植への活用のため、バラ管理の市民ボランティア「ローズAMA」の方々を対象に、接ぎ木講習会を行った。



(ローズアマガサキ2016)



(接ぎ木講習会)

## (9) 花と緑の情報発信

### ① 緑の相談所での情報発信

緑の相談所において、公園内で見られる絶滅危惧植物の紹介を掲示して情報発信を行い、公園散策の魅力を伝えた。

また、秋にはザクロやナンキンハゼなどの園内で見られる秋の実いろいろを実物展示し、緑の見どころを紹介する展示を行った。

さらに、市民が花や緑について自由に学習及び情報収集ができるように、本棚を増設し、特に、子育て世代をターゲットとした絵本や子ども向けの図書を増冊して、学べる空間を提供した。



(絶滅危惧植物の解説展示)



(学習空間の整備)

### ② 緑の相談所だよりの発行

年4回の四季発行で、季節ごとのトピックや催し等の広報を中心に、話題の植物や希少な植物の情報、ガーデニングのアドバイスなど、幅広く興味を持たれるような紙面構成を心掛け、読者層の拡大に努めた。

本年度はコロナ禍で生活の制限が多い中、上坂部西公園の花情報を入れたスゴロクや、市内で見られるスマイレの紹介など、家庭や身近な場所で楽しめるよう、時機を見た紙面づくりにも留意した。



(緑の相談所だよりの)

- ・発行部数 各号4,000部発行。但し春号はフェスティバルを広報するため4,500部発行。年間発行数16,500部
- ・主な配布先 本市緑の相談所、本庁、支所、公共施設、金融機関の待合等で市民配布。また学校、近隣市の緑の相談所、賛助会員及び花いっぱいの会々員に送付

### ③ ホームページによる情報発信

情報発信手段の中核的媒体であるホームページは、中高年事業株との統合を機に閲覧者により見やすく、分かりやすく情報を伝えられるホームページを目指して、デザインやページの構成を見直すとともに、スマートフォンやタブレットなど様々なデバイスから快適に利用できるように改善した。



(リニューアルしたホームページ)

この新たなホームページを活用して、市民が最も知りたい公園情報、ボランティア

活動の募集案内、四季折々の植物紹介や開花情報、イベント情報や講習会・展示会の案内等のタイムリーな情報を提供するとともに、スタッフブログのコーナーでは日々の出来事等を軽いタッチで掲載するなど、親しみやすさにも留意した発信を行った結果、アクセス数は大きく増加した。

- ・HPの発信回数とアクセス数

年度	R 2	R 3
情報発信回数	92回	288回
HP訪問数(アクセス数)	43,692回	70,855回

#### ④ Facebook を活用した情報発信

尼崎市と共同で運営しているFacebook「アマグリ」を活用して公園での花や緑の見頃情報や、緑化行事の紹介などをリアルタイムで発信し、ネットワークでつながるユーザーや当協会事業への関わりが比較的少ない若者世代への情報提供を積極的に行った。



(FB (アマグリ))

情報発信回数	219回
--------	------

#### ⑤ 観光情報施設からの情報発信

阪神尼崎駅前にある尼崎観光案内所(旧中央公園パークセンター)や、JR尼崎駅構内にあるあまがさき魅力案内所「あまらぶ i+Plus」に加え、新たに尼崎北郵便局に公園パンフレットや緑の相談所だより等の印刷物を提供し、多数の乗降客等に向けて緑化情報を発信した。



(観光案内所)

#### ⑥ 記念公園総合体育館への広告看板の設置



体育館利用者等に対して、協会の周知と緑への興味をもってもらうため、尼崎市記念公園ベイコム総合体育館に広告看板を設置した。



(体育館に設置した広告看板)

#### ⑦ 公園掲示板等の活用

上坂部西公園の他、各管理公園に設置している公園掲示板を活用し、花と緑の情報を公園利用者の方に提供した。

また上坂部西公園では、協会と来園者の皆さんが双方向で園内の開花情報を発信し合う「みんなで作る！開花情報」案内板で季節の開花情報の共有化を図るなど、都市緑化植物園の特徴を活かした取組を行った。

## ⑧ “上坂部西公園の園内案内看板”のリニューアル 新

劣化が著しく、情報も古くなった上坂部西公園の案内看板について、より親しみやすいデザインとして一新した。

また、新たな公園リーフレットを作成したほか、ボランティア団体の協力のもと園内の掲示板や樹名板などのリニューアルを行った。



(園内案内看板)



(公園リーフレット)

## ⑨ FMあまがさきからの情報発信

地域密着のコミュニティ放送局である「FMあまがさき」に定期的に出演して、当協会が関わるイベントや、講習会・展示会の案内、病気・害虫対策等の園芸相談など、様々な花・緑情報を発信した。

担 当	放送回数	放送内容
上坂部西公園緑の相談所	27回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開花情報</li> <li>・園芸ミニ知識</li> <li>・講習会、展示会の案内 等</li> </ul>

## (10) 園地維持管理業務 新

フィールド公園等の園地部分の清掃、除草、かん水をはじめとする保護育成、花壇の維持管理や流れ等の施設管理業務を実施することに加えて機動班を投入して、危険木等の剪定を行った。

緊急事態宣言期間は、屋外施設である公園の利用者が平常時より大幅に増加したため園内清掃に注力し、一層公園の美化に努めるとともに、密集の回避等感染防止の呼び掛けも行った。



(高所作業車による剪定作業)

## (11) 施設管理業務

### ① 元浜緑地わんぱく池運営管理業務

子ども達が水遊びのできる約750㎡の施設で、手こぎいかだ等の水の遊具や樹形の噴水・水のカーテンが設置されているわんぱく池の運営管理は、新型コロナウイルス感染防止のため、7月12日から9月3日の間の平日のみで人数制限を行い、更に1日3交代の完全入れ替え制にするなど徹底した感染防止対策を講じてスタートしたが、8月2日に発令された「まん延防止等重点措置」により、期間途中での休園に追い込まれた。

・〔開園期間 7月12日(月)～7月30日(金)〕

開場日数	利用者数	1日平均利用者数	最高利用者数
13日	2,457人	189人	393人[7月30日(金)]

## ② 元浜緑地駐車場管理運營業務

元浜緑地駐車場の管理運營業務を受託し、公園利用者の利便を図った。

開場日数	普通車入庫数	大型車入庫数	総入庫数	1日平均入庫数
359日	16,258台	28台	16,286台	45台

## ③ その他施設管理

上坂部西公園緑の相談所や元浜緑地管理棟の電気点検、消火器点検等の施設管理業務を法令等に基づき、適正に実施した。

一部の老朽化した設備については、不具合箇所を速やかに市に報告し、計画的な更新を要請した。

## (12) 公園管理に関するその他の取組（循環型社会形成への貢献）

### ① 剪定枝のチップ化によるリサイクル 新

本年度に新たに導入した大型樹木粉碎機（ウッドチップパー）を活用して、剪定の際に発生する枝等を焼却処分せずチップ化して再利用する取組を行い、二酸化炭素排出量の抑制に努めた。

本年度のチップ化作業では、元浜緑地や尼崎の森中央緑地で発生した剪定枝や間伐材を粉碎し、4 1 m<sup>3</sup>のウッドチップを作り出して園路に敷き均したり、植栽苗木の足元に雑草抑制のためのマルチング材として敷き詰めるなどの有効活用を行い、資源の循環に取り組んだ。



(大型粉碎機によるウッドチップづくり)



(樹木の足元に敷き詰め作業)

### ② マリーゴールドによる害虫駆除の取組

マリーゴールドは、畑や花壇の土にすき込むと土壌中の有害線虫を減らす効果があることから、花壇の植え替えて抜き取った株を市民の方々に利用方法を説明して配布し、農薬を用いない環境にやさしい害虫駆除方法を推奨した。



(花壇の植替えて抜き取ったマリーゴールド)

## 2 西武庫公園管理運營業務

### (1) 西武庫公園の魅力向上の取組

本年度も西武庫公園の管理運営を継続して受託し、公園内施設「ゆめハウス」において展示会や講習会を開催するなど、様々な緑化普及啓発、公園利用促進の取組を行った。

#### ① 西武庫公園での緑化普及啓発の取組

月 日	日数	取組名称	参加者数	内 容
3月13日	1日	野鳥観察会	9名	公園で見られる身近な野鳥の観察
3月13日 ～20日	8日	野鳥写真展	118名	園内や身近で見られる野鳥の写真を展示
計	9日	2回	127名	



(野鳥観察会)



(野鳥写真展)

#### ② 公園を利用した各種取組

例年、地元子ども会や老人クラブ等と協働で行ってきた公園を利用した各種取組は、新型コロナウイルス感染症防止のため、全て中止した。

### (2) ボランティアとの協働の取組

花づくりボランティア「西武庫公園フェアリーズ」との協働作業として、種から苗を育てて園内の花壇に植栽する取組を行った。

- ・登録人数 4名
- ・定例活動日 毎週土曜日  
(上記以外にも日常的に作業を実施)

- ・活動内容 公園ボランティア「西武庫公園フェアリーズ」の方々と協働で、園内に設置してあるビニールハウスで花苗を生産し、公園内の花壇に植栽して管理を行った他、園内の施設の装飾なども手掛けるなど、公園の美化に努めた。



(花壇の植付作業)

### (3) ネットワーク会議の事務局

本年度も、引き続き公園利用団体等から構成される「西武庫公園ネットワーク会議」の事務局を務めたが、ネットワーク会議が主催する公園での催し（冒険広場がやってきた！）についても他の公園行事と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により断念したこともあり、会議は開催しなかった。

### (4) あまがさき健康ファームの取組

園内の分区園奥の未利用地を活用し、市の健康支援推進担当とタイアップしてスタートした、「あまがさき健康ファーム」の取組を引き続き実施した。この事業は、市の特定検診で物忘れチェックを受診された方を対象に、農作業による認知症予防を目的として農地を有償で提供するもので、併せて園芸相談員が年間10回の農作物栽培等の講習を実施する付加価値を加えて運営する貸農園。



(農作物栽培講習会)

#### ・農園栽培講習参加者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	4	5	2	—	5	4	4	4	5	5	—	4	42

### (5) 園地の保護育成と施設の管理 新

老朽化し、枯れ枝が目立っていた園内のサクラを機動班で一斉に手入れするなど、利用者の安全・安心につながる適正な公園管理に努めた。また、西武庫公園駐車場の管理運営業務を受託し、利用者の利便性向上に努めた。

#### ・西武庫公園駐車場利用状況

開場日数	普通車入庫数	大型車入庫数	総入庫数	1日平均入庫数
365日	39,037台	30台	39,067台	107台

## 3 尼崎の森中央緑地指定管理業務 新

兵庫県園芸・公園協会、阪神園芸(株)との三者共同体での新たな指定管理の年（5年間）を迎えた当業務については、引き続き環境学習の各種プログラム実施や森づくり活動の支援、緑地及び施設の維持管理等を担当し、加えて各種集客イベントにおいても十分な協力体制を敷いて取り組むなど、緑地の美化と事業目的達成に努めた。本年度も高いハードルが設定されている来園者目標数（30万人）を達成するため、主催行事や持ち込みイベントの誘致などの催しを多数計画し実施した。新型コロナウイルスの影響により中止したイベントもあったが、兵庫県の感染対策を遵守し、人数制限を設けるなどして可能な限り開催し、また土日祝の利用者増もあって、公園利用者がこれまでで最高の268,870人となった。

また、市報への記事掲載や、協会ホームページ、ブログを活用した催し等のPR、緑の相談所をはじめとする各施設でのチラシ等の配布や掲示など、尼崎の森中央緑地の認知度を向上させるための各種情報発信にも注力した。

・魅力アップ事業（区市共同事業）の開催状況

事業名称	内 容	参加者数等
環境体験事業（県事業）	県内の小学校児童を対象にした環境学習	909人
環境体験事業（尼森独自事業）	幼稚園等上記以外の園児、生徒を対象	563人
環境体験プログラム1	季節ごとに異なる自然環境を楽しく学ぶ	207人
環境体験プログラム2	一般来園者がいつでも気軽に体験	2,240人
環境体験プログラム3	自然に関するより詳しい知識を学ぶ	88人
尼崎の森ファミリークラブ	本市及び近隣市の小1を対象にした植樹	46人
昆虫採取イベント	当緑地に生息する昆虫を捕獲し観察する	900人
森の子育てひろば	阪神間の親子が自然を体感する	52人
環境学習サポーター養成講座	環境体験をサポートするボランティア養成	64人
生物多様性促進イベント	森づくりを広くPRするイベント	87人
自由提案イベント	大芝生広場等を活用した大規模集客イベント	雨天中止
大規模音楽イベント（誘致）	県と連携し、大規模な音楽イベントを誘致	300人



（環境体験事業）



（昆虫採取イベント）



（森の子育てひろば）

・利用促進事業（県事業）の開催状況

事業名称	内 容	参加者数等
持込み企画誘致・サポート事業	大芝生広場でダンスや音楽イベントの誘致	300人
食のイベント推進プロジェクト	阪神間の飲食店等による食がテーマのイベント	9,700人
茅葺き民家活用プロジェクト	民家や森を使って里山の暮らしを体験	475人
ひょうごヘルシーパークプロジェクト	ウォーキングやヨガ等の健康づくり	400人
運動会等開催サポート	近隣企業等の運動会等の開催をサポート	コロナで中止
子育て交流スペース設置・運営	子育て情報コーナーや交流スペース	112人
夏休み自由研究サポートプログラム	緑地の自然素材を活かしたワークショップ	1,500人

事業名称	内 容	参加者数等
森から学ぶ幼児教育プログラム	親子で一緒に楽しめるプログラム	382 人
森のお道具箱	間伐材等のクラフト材料を貸し出し	152 人
元プロ野球選手から学ぶ3世代交流スポーツ教室	キャッチボール教室など	68 人
生物多様性あまもり戦略 2019 の推進	各活動・催しに当計画を組込み	各活動にて実施
生物多様性普及啓発プロジェクト	地域制苗の活用及び普及啓発	182 人
ボランティア活動団体支援プロジェクト	自治体や教育関係者に研修	84 人
森のセルフガイド推進プロジェクト	指導者なしで学習・体験できるセルフガイド	491 人
郷土種グリーンフェスタ	郷土種を使った体験プログラム	845 人
尼森防災プロジェクト	県・市と連携した防災イベントや訓練	関係部局と実施
安心安全プロジェクト	危機管理マニュアルに基づく避難訓練など	100 人
みんなにやさしい公園づくりプロジェクト	HP に園内バリアフリーの掲載や園内看板の整備	各所にて実施
アクセス向上社会実験プロジェクト	バスや自転車でアクセス向上の社会実験	中止
会議室セットプランサービス	環境学習教材とセットで会議室を提供	0 人
1000ha 連携プロジェクト	1000ha エリア内の企業、運河関係団体と連携	763 人
学生との連携プロジェクト	近隣の大学との連携による緑地の活性化	260 人
森の会議発案企画サポート	オリジナルの競技を楽しむ運動会など	400 人
森の文化祭	近隣地域へのPRを目的にしたイベント	1,121 人
夜の公園活動プログラム	星空観望会など	90 人
尼崎の森中央緑地ガイドツアー	職員と緑地内を巡るガイドツアー	136 人
公園活用プロジェクト	通常禁止されている公園利用をイベントとして行う	ドックランの実施
インスタ映えスポット紹介・写真コンテスト	写真コンテストの開催など	候補場所の選定
親子で運動を楽しむプログラム	大芝生広場などでスポーツプログラム	180 人
新たな公園の管理運営について	公園内での「ひょうごスタイル」推進など	適宜実施



(ヘルシーパークプロジェクト)



(森から学ぶ幼児教育プログラム)



(3世代交流スポーツ教室)

#### 4 緑地・緑道等の保護育成業務



中高年事業(株)から移管された当業務では、市内の公園や緑地緑道、街園、植樹帯など483カ所の樹木剪定、生垣剪定、芝刈、除草等の維持管理を持ち前の機動力を活かして適切に実施するとともに、新たな公益目的事業に位置付けるため潮江公園でのバラ散策会などの緑化啓発事業を実施し、緑に親しむ人のすそ野を広げる取組を拡大した。

##### ・管理対象

公園	206カ所
子ども広場	111カ所
緑地緑道	55カ所
街園	56カ所
植樹帯	55カ所
計	483カ所

##### ・緑地緑道での緑化普及啓発の取組

月 日	場 所	取組名称	参加者数	内 容
11月21日	潮江公園	季節の花散策～バラ～ (2回)	29名	サイン整備したバラ園の案内とポプリづくりを体験
12月14日	北雁替公園	チューリップ運動球根植付	9名	市民との協働でチューリップの球根を植付
3月14日	猪名川河川敷他	野あそび健康ハイキング	11名	猪名川河川敷周辺を歩きながら身近な自然をガイド



(潮江バラ散策会)



(北雁替チューリップ花壇)



(健康ハイキング)

また中高年事業(株)との事業統合のシンボル事業として取り組むバラ園リニューアルプロジェクトの第1弾として、潮江公園バラ園のサイン整備を行い、中期計画に掲げる「まちの魅力となる緑の情報発信」の強化を図った。



(潮江公園のバラサイン)

#### 5 ファミリーフェスタの開催

秋の恒例行事として継続して実施している「ファミリーフェスタ」を尼崎の森中央緑地で開催した。この催しは、広大な大芝生広場を会場として、当緑地を共同で管理している県園芸公園協会が主催する「郷土種グリーンフェスタ」との2催事合同での取組で、郷土の野草の寄せ植えや、ステージイベント等で多数の家族連れが訪れる中、当協会が執り行うファミリーフェスタでは、ゴーカートや子ども達の各種遊びのコーナーを提供して来園者を招き、秋の休日を楽しんでいただいた。

・開催日 10月17日(日)

- ・場 所 尼崎の森中央緑地・大芝生広場
- ・参加者数 約 845 人（2つの催事のトータル数）
- ・内 容 ゴーカートで遊ぼう、竹馬や竹コッポリなどの昔あそび体験、縁日 等



（郷土の野草の寄せ植え）



（ゴーカートで遊ぼう）



（昔あそび体験）

## 6 尼崎市民農園の運営管理

本年度も農園主から管理業務を受託して実施した。市農政課から農園管理を引き継ぎ、協会独自事業として農園の巡回点検や利用指導、新型コロナウイルス感染防止対策を施しながら実施した年10回の市民農園教室開催などに取り組んで、管理箇所数を順調に増やした。

- ・各年度ごとの管理農園及び区画の増加数

区分/年度	25年度	26年度	27年度	28年度
農園数増減 (累積数)	+4農園 (4農園)	+4農園 (8農園)	+4農園 (12農園)	+4農園 (16農園)
区画数増減 (累積数)	+312区 (312区画)	+186区画 (498区画)	+249区画 (747区画)	+140区画 (887区画)

区分/年度	29年度	30年度	元年度※1	2年度	3年度※2
農園数増減 (累積数)	+1農園 (17農園)	0農園 (17農園)	+1農園 (18農園)	+1農園 (19農園)	±0農園 (19農園)
区画増減数 (累積数)	+27区画 (914区画)	-3区画 (911区画)	+53区画 (964区画)	+33区画 (997区画)	-90区画 (907区画)

※1：廃園1，新規開設2 ※2：廃園1，新規開設1

- ・農園教室の開催状況（概ね各農園ごとに開催）

月	開催日	開催回数	テーマ	参加者数
4月	15, 16, 19, 22日	19回	ナス・トマト・キュウリの初期管理	149名
5月	24, 25, 26, 28日	19回	夏野菜の管理 ここを気を付けよう！	120名
6月	15, 18, 21, 23日	19回	暑い時期の管理ポイント	112名
7月	27, 29日	4回	秋冬野菜の栽培ポイント	55名
9月	9, 13, 15, 21日	19回	種まきからのタマネギ・エンドウ・ソラマメ	109名
10月	12, 15, 20, 21日	19回	タマネギの定植 10-11月の栽培管理	123名
11月	9, 11, 15, 16日	19回	この時期の秋冬野菜の管理作業	81名
12月	8, 13, 14, 16日	19回	真冬の(12-2月)の栽培管理	88名
1月	17, 18日	4回	野菜栽培の基礎について	33名

月	開催日	開催回数	テーマ	参加者数
3月	14, 15, 23, 24日	17回	春夏野菜の準備	100名
合計		158回		計970名



(農園教室の様子)

## Ⅱ 公益2事業【定款事業(2)】

(市民ボランティアグループ及び市民運動として展開している花のまちづくりの協働推進事業)

### 1 花と緑のまちづくり推進事業

#### (1) 街なみ街かど花づくり運動業務

本年度も引き続き市民ボランティアの花の世話役さんで組織する「尼崎花のまち委員会」の事務局を務め、市民自らの手で花を育てて街を飾ることにより、美しい街なみ景観の向上を図る「街なみ街かど花づくり運動」を推進した。

この活動についても、感染予防対策として各圃場に大勢のボランティアが集う春の種まきは人数を調整して実施するなど工夫して、街なみ街かどの花壇の彩を維持した。

また、総会を開くことができないため議案書を送付して開催に代えるなど、感染症が様々なところに波及した一年となった。



(感染防止のため人数を制限した種まき作業や役員会の様子)

講習会名/月日	6/8	7/6	9/7	10/19	11/9	12/7	修了レポート	修了者
花のガーデニング教室基礎コース	4名	4名	6名	4名	4名	4名	4名	4名

講習会名/月日	6/7	6/21	7/5	9/6	11/15	12/6	修了レポート	修了者
花のガーデニング教室応用コース	5名	3名	4名	3名	3名	3名	3名	3名

ボランティア区分	グループ数	人 数
花の世話役さん(市民ボランティア)	116グループ	482名
公共施設の花づくり(市・団体職員等ボランティア)	53グループ	194名
合 計	169グループ	676名

※ 市民ボランティアの個人会員14名を含む

## (2) 花のまちあまがさきチューリップ運動業務

### ① チューリップ運動の推進

本年度も引き続きチューリップ運動推進会議の事務局として、運動の推進に鋭意取り組んだ。昨年度に引き続き、市民等へ斡旋する球根の内、「百合咲き」や「八重咲き」「フリンジ咲き」などの変わり咲きチューリップの割合を大幅に増やし、目新しさを出す工夫をしたが、本年度も新型コロナウイルス感染防止のため市民まつりをはじめとする各イベントが中止となり、加えて地域振興センターでの販売も実施できないなど、従来の斡旋機会の大半が無くなった。それでも、各地域振興センターに一日限定で出張販売を行うなど工夫した結果、普及総数はおよそ9万5千球と前年とほぼ同数程度となった。また、企業・団体からの寄付を活用して駅前等を彩る市民大型花壇についても、大勢のボランティアが集まることができないなど、事業の実施には苦慮したが、感染防止策を講じて少人数で植え付けを行い、春のチューリップ開花を維持した。

更に、2万1千本のチューリップが咲き誇り市内屈指の大型花壇である阪神尼崎駅前芝生広場は、開花期の柵の開放を例年どおり行い、間近での鑑賞を可能にしたが、「チューリップまつり」の開催や幼稚園児の写生会、吹奏楽の演奏会などの催しが全て中止となるなど、事業展開の制約を受けた。



(JR 尼崎駅北緑道での植付け)



(本部での球根販売)



(中央公園の満開のチューリップ)

## ② 東日本大震災被災地応援プログラム

尼崎市がカウンターパートとして継続支援している宮城県気仙沼市にチューリップ球根を贈呈する当該事業についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き現地を訪れての目録贈呈や地元市民の方々との協働の植付作業などができなかつたため、球根約7千球を送付し、気仙沼市での自主的な活用に委ねることとした。

### Ⅲ 公益3事業【定款事業(3)】

#### (尼崎市緑化基金を活用した緑の保全及び緑化催事開催による普及啓発事業)

#### 1 春の花と緑のフェスティバルの開催

春の恒例行事である「春の花と緑のフェスティバル」は、コロナ禍で従前の実施内容での開催は困難なことから、園内ガイドや寄せ植え教室など申込制で複数の講習を組み合わせたものに模様替えし、名称も「2021 春の公園で緑を楽しむ」というタイトルに改めて開催すべく準備を進めたが、4月5日にまん延防止等重点措置、4月25日からは緊急事態宣言が発出されたため、令和2年度に続き中止となった。

#### 2 屋外展示会共催事業（中央公園芝生広場内）

本年度のさつき展は、緊急事態宣言の影響を受け中止を余儀なくされた。一方菊花展については感染者数が小康状態となった秋期の開催のため、様々な感染防止策を講じ、来場者と会員の安全に最大限配慮した形で開催した。

名 称	開催期間	日数	内 容	入場者数	場 所
皐月展	新型コロナウイルス緊急事態宣言発出のため中止				中央公園
菊花展	10/31～11/13	14日	大菊3本立てなど約350点を出品展示	3,698人	中央公園

#### ◆新型コロナウイルス感染防止の対策

- ・野点や花苗販売等幅広い層の集客を図るための各種イベントを中止
- ・開催期間の短縮
- ・会場内通路の一方通行を設定
- ・ひょうごスタイルに基づく来場者連絡先の把握
- ・会場入り口での検温の実施
- ・アルコール消毒液の設置
- ・主催者のマスク着用徹底 など



(菊花展)

### 3 民有地緑化推進事業

#### (1) 生垣等設置助成事業

緑視率を高めることによるまちなみ景観の美化と防災効果のため、ブロック塀を生垣に作り替えたり、生垣を新設する経費の一部を助成するものであるが、本年度は申請がなかった。

- ・ 助成対象…公道(公道と公道を結ぶ、幅員2.7m以上の私道を含む。)に面し、緑化の延長が概ね3m以上のもの  
0.5m以上の高さの樹木を1m当たり3本以上植栽  
設置後5年以上活用できるもの
- ・ 実績 0件
- ・ 延長距離 0m
- ・ 助成額 0円

#### (2) 保護樹木等の助成事業

尼崎市が指定した保護樹木等(単木61本・樹林43箇所)の保護養生に要する経費を所有者等に助成

本年度は春の花と緑のフェスティバルをはじめ催事の中止が相次いだため、希望者の多い当助成事業に財源を振り替えて助成を行った。

- ・ 指定基準…単木：地上高1.5mでの幹周1m以上、樹高10m以上  
樹林：保護樹木を含む面積が300㎡以上

種類/地区	中央	小田	大庄	立花	武庫	園田	計
樹木	5本	17本	6本	8本	8本	17本	61本
樹林	3カ所 9,920㎡	11カ所 15,155㎡	2カ所 6,879㎡	8カ所 16,629㎡	9カ所 12,382㎡	10カ所 19,927㎡	43カ所 80,892㎡
本年度実績	0	1	0	3	2	3	9

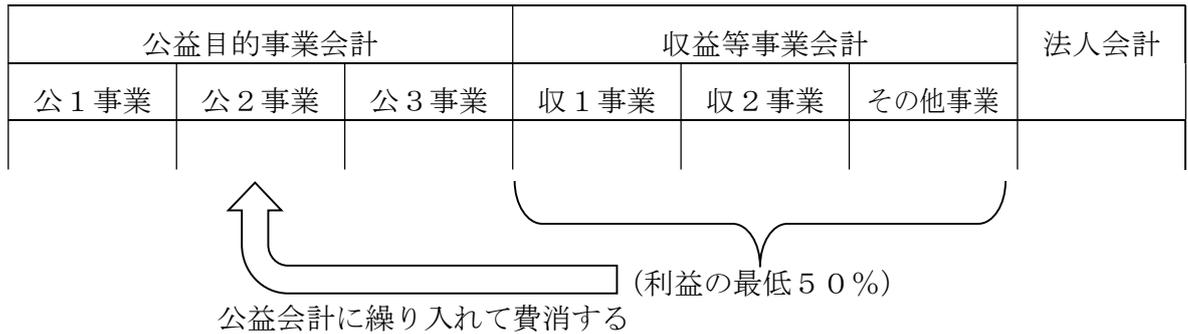
- ・ 本年度助成内容 剪定 9件
- ・ 助成額 2,402,140円

## ◆ 収益等事業

### \* 統合後の収益事業の意義

公益法人認定法施行規則では、公益法人が収益事業等を行う場合、収益事業等から生じた利益の50%は公益目的事業会計に繰り入れ、公益のために使用することが規定されている。

これは、収益事業の規模が格段に大きくなった統合後の当協会において、法人内部で公益目的事業の充実を図るための財源を捻出する仕組みができたことを意味し、画期的な統合効果となった。



## I 収益1事業【定款事業(4)】

### 1 花・植木等販売事業

緑の相談所での園芸相談や市民農園での栽培指導時に、作業に必要な薬剤や肥料等の説明と合わせて当該商品をコンサルティング販売したほか、「花のまちあまがさきチューリップ運動」の一環としてのチューリップ球根販売や、県立尼崎北高校への壁面緑化資材の販売など市民運動や環境緑化の取組に寄与する事業を行った。また、クリスマスの時期にシクラメンやポインセチアを販売するなど例年人気の高い植物をピックアップしての販売事業も実施した。更に、学校等への年2回の通信販売「春季及び秋季の特別販売」や、学校行事の装飾等で使用する鉢花等の注文販売を本年度も引き続き実施するなど、売上げの増加と自主財源の確保に努めたが、催事での出店販売は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大半が中止となった。

#### (1) コンサルティング販売（緑の相談所・市民農園）

・売上 519,620円

#### (2) チューリップ運動球根の販売

##### ① 窓口販売

・売上 653,650円

##### ② 受注販売

・売上 353,550円

### ③ 催事販売

販売名称	期 間	場 所	売 上
森の文化祭	10 / 31	尼崎の森中央緑地	14,400円

※市民まつりをはじめとする多くの催事販売は中止

### (3) その他の受注販売

- ・ 期間 年間を通じて随時受け付け
- ・ 内容 花苗、野菜苗、鉢花、種子、用土、肥料などの注文販売
- ・ 対象 学校、公共施設、賛助会員等
- ・ 件数 7件
- ・ 売上 98,115円

### (4) 通信販売

#### ① 春季特別販売

- ・ 期間 4月1日（木）～4月21日（水）
- ・ 内容 トマト、ナス等夏野菜8品目と花苗、用土、肥料の販売
- ・ 対象 学校など
- ・ 件数 45件
- ・ 売上 1,129,680円

#### ② 秋季特別販売（冬・春花壇用花苗等含む）

- ・ 期間 8月31日（火）～9月22日（水）
- ・ 内容 パンジーなどの花苗や用土、肥料と秋植え球根等52品目の販売
- ・ 対象 賛助会員、学校、花いっぱい会など
- ・ 件数 花苗及び資材45件 球根46件
- ・ 売上 1,457,940円

※上記の他、事務所建物の一部の賃貸収入等の収益事業を実施

## II 収益2事業【定款事業(4)】

### 1 道路植樹帯等の保護育成業務



市内一円の道路植樹帯等187路線の樹木剪定、芝生管理、清掃、除草、花壇管理等の業務を尼崎市から受託し、中高年事業(株)時代からの強みである機動力を駆使して適正かつ効率的に維持管理を行い、街の美化と協会の収益確保に努めた。



(道路植樹帯の管理業務)

## 2 阪神尼崎駅北駅前広場等の維持管理業務

移

阪神尼崎駅北駅前広場、中央公園、庄下川公園及び庄下川歩行者専用道路など対象区域における巡回、各施設の点検及び補修、清掃等の日常管理や、樹木・生垣剪定、除草、病虫害防除、花壇植替等の緑化業務を尼崎市から受託し、尼崎市の玄関口である当エリアの美化と協会の収益確保に努めた。



(中央公園 (人工地盤))

## 3 民間団体等からの受託業務

移

企業や工場、集合住宅及び個人邸などの剪定、除草、病虫害防除などの業務を多数請け負い、リーズナブルで良質な維持管理により顧客満足度向上に努め、リピーターを確保して自主財源の増加を図った。



(集合住宅の剪定)

- ・取引先 (株)東急コミュニティー  
日本管財(株)  
(株)ウォーターエージェンシー  
日油(株) 等 207件
- ・売上 58,006,810円

## II その他1事業〔定款事業(4)〕

### 1 オリジナルカレンダーの作成

新

毎年、市内の様々な場所で撮影された花の写真などを掲載しているオリジナルカレンダーの紙面を、協会管理公園や事業をアピールするツールとして活用することに用途変更し、作成部数も大幅に増やすとともに、サイズやデザインを刷新して広く市民等に無償配布した。

- ・作成仕様 A4版中綴じ(開くとA3)8枚綴り4色カラー
- ・作成部数 1000部



(カレンダー)

### 2 賛助会員の確保

当協会の緑化普及活動の趣旨に賛同し、緑あふれるまちづくりに協力いただく会員の確保に取り組み、緑化普及啓発の輪の拡大に努めた。近年は、個人会員の高齢化や法人会員のコスト削減等に伴い、会員数は減少傾向にある。

・過去5年間の会員数

年 度	会員数	口 数
平成29年度	157件	295口
平成30年度	156件	275口
令和元年度	147件	264口
令和2年度	148件	266口
令和3年度	134件	238口

### 3 県民まちなみ緑化事業等申請窓口業務

兵庫県が「緑」の保全、再生を目的として導入した「県民緑税」を活用して実施している各種緑化事業の申請窓口業務を受託し、緑の相談所など各施設での募集案内の配布に加え、これまでの申請者にも声掛けをするなど、より多くの方からの応募を募るとともに、円滑な受付対応を心掛け、都市緑化推進の一助とした。

事業名称	内 容	取扱件数
緑化資材の提供事業	緑化活動グループ(自治会等)への緑化資材の提供	21件
県民まちなみ緑化事業	屋上や壁面緑化、校庭芝生化等緑化事業費の補助	1件

### 4 緑化協力団体の育成事業

伝統園芸の保護・継承や、草花等によるまちの美化など、緑化の普及啓発に携わっている団体の活動援助、会員確保・増加の取組のサポートのほか、展示会開催にあたり支援するなど、指導、育成と連携を図った。

・緑化協力団体等関連団体一覧

団 体 名		
尼崎市菊花協会	尼崎洋ラン会	尼崎皐月協会
尼崎小品盆栽山野草会	尼崎市花いっぱい会	



(尼崎小品盆栽山野草会による展示)



(尼崎洋ラン会による展示)

## 5 緑の募金の実施

(公社)兵庫県緑化推進協会が実施する「緑の募金」を、募金箱の設置や幼稚園、小、中、高等学校、事業所、市民及び市職員等を対象に募り、募金された方には緑の羽根を配付した。

なお、緑の募金については緑化推進協会が実施する「森と緑のふれあい支援事業」の原資として様々な緑化普及事業に活用されている。

・緑の募金額 21,663円

## 6 技術・知識の向上

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により植物園協会等の会議やセミナーの大半が中止になったが、事業統合によって拡充した維持管理業務の技能を旧協会の作業員等が習得するための講習や、旧中高年事業(株)の事務職員が公益法人会計をマスターするための講座など、統合によって必要性が生じた業務の研修を多数受けさせ職員の技術・知識の向上を図った。

また、協会のあり方を検討する中で課題となった公益目的事業認定の状況について、他都市の公園管理団体に足を運び、調査を実施した。

更には、職員の安全や健康を維持するため定期的に行う内部研修も開催し、良好な労働環境の提供に注力した。

### ・受講した研修等一覧

研修区分	月 日	研修先又は研修内容	参加者数
連絡会議	10月21日	緑の相談所連絡会議 (県立フラワーセンター)	2名
講座・セミナー	7月14日	安全管理者選任研修	1名
	7月21日	刈払機作業安全衛生教育	3名
	7月23日 ～24日	小型車両系建設機械運転特別教育	1名
	8月29日 ～31日	小型移動式クレーン運転技能講習	1名
	9月5日 ～7日	玉掛け技能講習	1名
	9月9日 9月11日	高所作業者運転技能講習	1名
	9月14日 ～16日	チェーンソーによる伐木等特別教育	1名
	9月22日	刈払機取扱作業者特別教育	1名

研修区分	月 日	研修先又は研修内容	参加者数
講座・セミナー	10月4日	フルハーネス型安全帯特別教育	1名
	10月11日 ～12日	高所作業車運転技能講習	1名
	11月30日	公園管理運営士資格更新講習	2名
	2月28日 3月1日	公益法人会計セミナー	1名
公益目的事業 等調査	11月15日	(公財)神戸市公園緑化協会	3名
	12月8日	(公財)高砂市施設利用振興財団	3名
内部研修等	6月23日	フィールド公園作業員安全管理研修	19名
	10月1日 ～1月8日	無事故・無違反運動「チャレンジ100」	10名
	11月12日	労働安全管理研修	約60名
	3月4日	職員健康管理研修	約60名

### Ⅲ 理事会、評議員会の開催

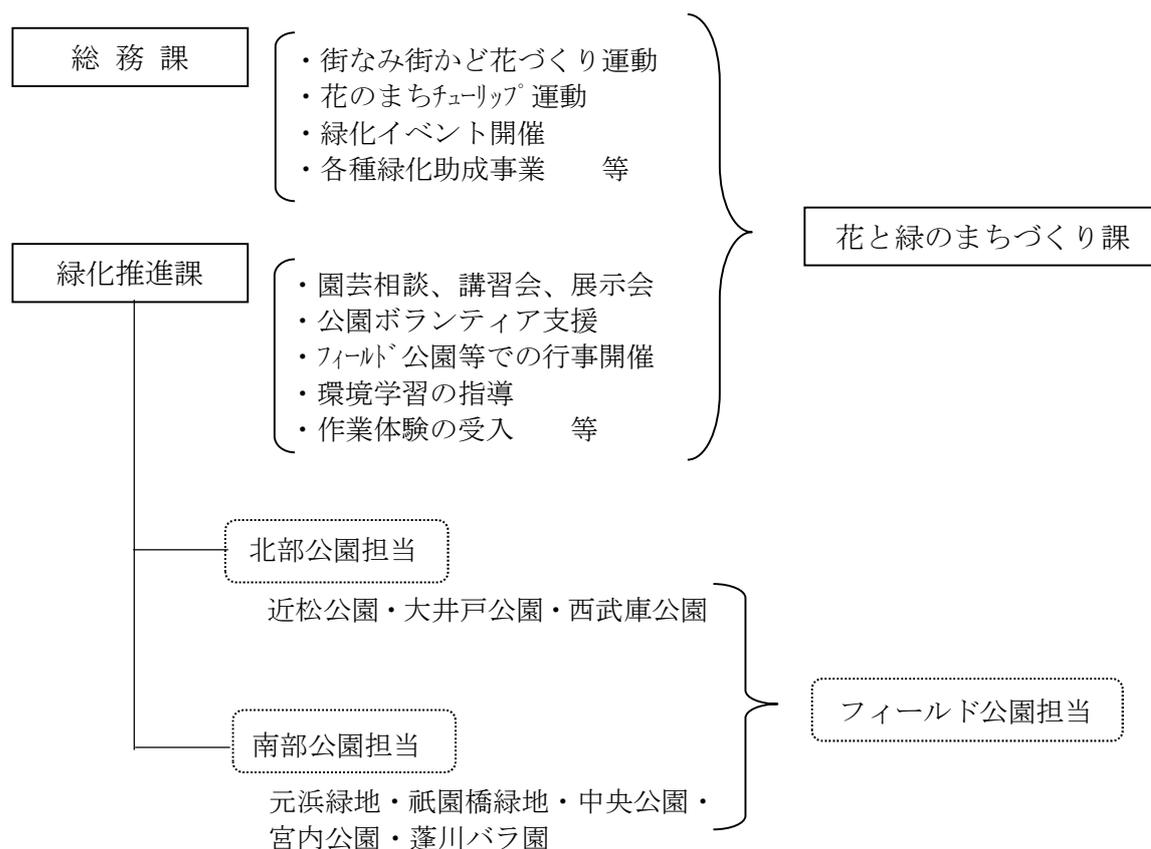
理事会・評議員会を定期的に開催し、事業計画・予算、事業報告・決算などの重要事項を審議・検討いただいた。

#### ・理事会、評議員会の開催実績

会議名称	開催日	場所	議案当
第1回理事会	6月14日(月)	本部事務所会議室	3年度事業報告・決算他
定時評議員会	6月29日(火)	尼崎商工会議所	3年度事業報告・決算
第2回理事会	3月29日(火)	本部事務所会議室	4年度事業計画・予算他

#### IV 10月1日付組織改正の実施

尼崎市の緑化施策実現に向けたパートナーとして、「中期計画」に掲げる緑化普及啓発業務の拡充を早期に実現するため、総務課と緑化推進課の二課で分担していた緑化普及業務を、新設した「花と緑のまちづくり課」に集約するとともに、フィールド公園の維持管理部門として緑化推進課に配置していた北部公園担当と南部公園担当の二係を、業務の効率化及び質の向上を図ることを目的として、新たにフィールド公園担当に一元化する組織改正を前倒しで行った。



#### V 新型コロナウイルス感染症への対応

いまだ収束が見通せない新型コロナウイルスへの対応として、在宅勤務の実施や感染防止策の徹底を図るとともに、従業員がワクチン接種しやすい職場環境づくりに取り組むなど、健康管理の推進に努めた。

また、年明け以降オミクロン株による感染者の急拡大が進行した局面では、協会内部でのクラスター発生などを想定し、BCP（事業継続計画）を策定して、緊急事態に備えた。

・令和3年度中に行った対策

1	項目	基本的な感染防止策と就業前の体温チェックの実施
	期間	年間を通して継続的に実施
	内容	本年度は、一年の半分以上の期間で「緊急事態宣言」、「まん延防止等重点措置」のいずれかが発令されていたため、マスク装着や手指消毒等の基本的な感染防止策の実施と、非接触型スタンド検温器を備え置き、就業前に必ず体温計測を行ってチェックシートに日々記録することによる、従業員の健康管理に取り組んだ。
2	項目	新型コロナウイルス感染拡大防止のための職員の在宅勤務実施について
	期間	4月25日～6月20日
	内容	緊急事態宣言の発出により、兵庫県から出勤者の7割削減をめざす要請が出たことから、各職場の状況を踏まえ可能な範囲での在宅勤務を導入。
3	項目	新型コロナウイルスワクチン接種(1,2回目)に対する特別休暇付与について
	通知日	5月10日
	内容	新型コロナウイルスワクチン接種1回につき1日の特別休暇付与
4	項目	新型コロナウイルスデルタ型変異株による感染急拡大への対応について
	期間	8月20日～9月30日
	内容	感染力が強く、重症化のリスクも高いデルタ株の流行により、緊急事態宣言が発令されたため、再度在宅勤務や基本的な感染防止対策の徹底を通知。
5	項目	新型コロナウイルスワクチン接種(3回目)に対する特別休暇付与について
	通知日	1月18日
	内容	新型コロナウイルスワクチン接種1回につき1日の特別休暇付与
6	項目	新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置への対応及び事業継続の体制構築について
	期間	1月27日～3月21日
	内容	これまでの変異ウイルスよりも更に感染力が強いオミクロン株による感染爆発が起これ、まん延防止等重点措置が発令されたため、在宅勤務の実施や感染予防の注意喚起を改めて行った。 また、協会内部にも感染者や濃厚接触による自宅待機者が複数出現したため、BCP（事業継続計画）の策定を進めた。